

## 第31回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

令和6年6月18日(火)に、第31回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部霜仁会館 3階多目的室にて開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内外の医師、看護師、薬剤師、MSW、ケアマネジャー、訪問看護師など参加され合計68名の参加者となりました。

当院の緩和ケアセンター乗安看護師長から開会の挨拶があり、各演者より以下の事例提示があった後、質疑応答を行いました。

### 事例:「転移により体動困難であった AYA 世代の舌がん患者が在宅療養へ移行した事例」

訪問看護ステーション 私の家 管理者看護師 伯野 秀太郎先生  
山口大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教 堀 健志先生  
山口大学医学部附属病院 B棟6階 看護師 今西 優花先生

参加者の方から以下の通り、たくさんのご意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

- ・「訪問看護師の方がどのような視点で、在宅でケアされているのか知ることができ、病院でのケアを実施していく上でも参考になりました。」
- ・「患者の意向を聞くこと、意思決定支援に非常に悩むので、自部署以外の事例を聞いて学びがあった。」
- ・「勉強になりました。これからの患者さんとの関わりに活かしていきたいと思います。」

この度は、様々な職種の方々に検討会にご参加して頂き、誠にありがとうございました。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 「検討会風景」

